

東洋大学学術情報リポジトリ Toyo University Repository for Academic Resources

谷地快一教授略歴

雑誌名	文学論藻
巻	93
ページ	3-7
発行年	2019-03
URL	http://id.nii.ac.jp/1060/00012213/

谷地快一教授略歴

- 昭和二三年（一九四八）五月七日
北海道芦別市生まれ
- 昭和四二年（一九六七）三月
北海道立芦別高等学校卒業
- 昭和四二年（一九六七）五月
日本商事株式会社入社（第一林業株式会社設立に伴い異動）
- 昭和四五年（一九七〇）四月
東洋大学文学部第二部国文学科入学（第一林業退社）
- 昭和四八年（一九七三）四月
清雅堂入社
- 昭和五〇年（一九七五）三月
東洋大学文学部第二部国文学科卒業（この間、一年休学）
- 昭和五〇年（一九七五）四月
東洋大学大学院文学研究科修士課程国文学専攻入学（清雅堂退社）
- 昭和五二年（一九七七）三月
東洋大学大学院文学研究科修士課程国文学専攻修了
- 昭和五二年（一九七七）四月
東洋大学附属牛久高等学校教諭
- 昭和五二年（一九七七）四月
東洋大学大学院文学研究科博士課程国文学専攻入学
- 昭和五五年（一九八〇）三月
東洋大学大学院文学研究科博士課程国文学専攻単位取得退学
- 昭和六〇年（一九八五）四月
東洋大学短期大学講師（東洋大学附属牛久高等学校退職）
- 昭和六三年（一九八八）四月
東洋大学短期大学助教授
- 平成九年（一九九七）四月
東洋大学短期大学教授
- 平成一一年（一九九九）四月
東洋大学短期大学日本文学科主任・同文学科第二部日本文学専攻主任

平成二二年（二〇〇〇）四月 東洋大学文学部教授（短期大学教授併任、平成一四年三月まで）

平成一六年（二〇〇四）四月 東洋大学文学部第二部日本文学文化学科主任

平成一七年（二〇〇五）四月 東洋大学文学部第一部日本文学文化学科主任

平成一九年（二〇〇七）一月 『与謝蕪村の俳景 太祇を軸として』により博士（文学）〈東洋大学〉

平成二四年（二〇〇二）四月 東洋大学大学院文学研究科国文学専攻主任（平成二六年三月まで）

平成二五年（二〇〇三）四月 文部科学大臣賞選考委員長（伊賀市・芭蕉翁顕彰会、平成二七年三月まで）

平成二六年（二〇〇四）四月 日本文学文化学会会長（平成三〇年三月まで）

平成二八年（二〇〇六）四月 東洋学研究所長（平成三〇年三月まで）

この間、郁文館学園、東洋大学短期大学、東洋大学文学部、鶴見大学女子短期大学部、跡見学園女子大学、青山学院大学大学院、群馬県立女子大学の非常勤講師。また、国文学研究資料館共同研究員、国文学研究資料館文献資料調査員。朝日カルチャーセンター新宿講師。フォト五七五（NHK教育TV）、週間！健康カレンダー（カラダのキモチ）（TBS TV）、日曜美術館（NHK教育TV）、双方向クイズ「にっぽん力」（NHK BSTV）取材・出演。

〔所属学会等〕俳文学会（常任委員）、日本近世文学会、俳文芸研究会、俳文学会東京研究例会、京都俳文学研究会、俳人協会、日本エッセイスト・クラブ、芭蕉会議（主宰）、無花果句会（庵主）

主要業績一覧

〔書 籍〕 ＊分担執筆を除く

猿みのさがし ＊村松友次と共編

芭蕉・蕪村発句総索引 ＊監修 井本農一・浅野信、共編 道本武彦

蕪村翁文集

俳諧三部集・夏秋集 ＊『夏秋集』の翻刻と解題

類字名所和歌集索引 ＊千艘秋男と共編

蕪村事典 ＊松尾靖秋・村松友次・田中善信と共編

与謝蕪村〈江戸人物読本3〉

蕪村研究資料集成〈全17巻〉

連句の世界 ＊佐藤勝明・竹下義人・宮脇真彦と共編

与謝蕪村の俳景太祇を軸として

俳句を作る方法・読む方法〈俳句教養講座1〉 ＊片山由美子・筑紫磐井・宮脇真彦と共編

俳句の詩学・美学〈俳句教養講座2〉 ＊片山由美子・筑紫磐井・宮脇真彦と共編

俳句の広がり〈俳句教養講座3〉 ＊片山由美子・筑紫磐井・宮脇真彦と共編

久富哲雄『芭蕉追跡 探訪と資料』 ＊編集協力

笠間書院 昭五一

角川書店 昭五八

笠間書院 昭六一

古典文庫 477 昭六一

笠間書院 昭六三

桜楓社 平二

ぺりかん社 平二

クレス出版 平五〇六

新典社 平九

新典社 平一七

角川学芸出版 平二一

角川学芸出版 平二一

角川学芸出版 平二一

笠間書院 平二一

久富哲雄『写真で歩く奥の細道』 *編集・解説

ふるさと大歳時記〈全8巻〉 *編集特別協力

〔監 修〕

えんぴつの旅・野ざらし紀行

サイイ9・大特集「おくのほそ道」を旅する

図書館教育ニュース〈No.1402〉「生誕300年・与謝蕪村が俳句で描いた四季」

〔共同研究〕

酒田市立光丘文庫俳書解題〈国文学研究資料館共同研究報告2〉

*共同研究者に尾形仿・森川昭・加藤定彦・雲英末雄・中野沙恵・池田俊朗

〔論 文〕 *近年執筆のもの（連載中を除く）

不易流行観の原点 貼紙訂正〈過客「にして行かふ」年も〉をめぐって

『文学論藻』七五号（東洋大学） 平一三・二

*のちに『芭蕉』〈日本文学研究大成、国書刊行会、平一六〉に入る

蕪村の倣画という方法―「我帰る路」句文の検証―

『祥』 平一七・五

*俳誌『祥』創刊十周年記念特集

芭蕉信仰のかたち―『諸国翁墳記』をめぐって―

『東洋学研究』（東洋大学東洋学研究所） 平一九・三

のちの細道―雲裡坊と蕪村―

『国文学』五二巻四号（學燈社） 平一九・四

奥の細道と風土―「軽み」へのアプローチとして―

『紀事』三六号（日本風土学会） 平二四・三

相手業にて候―洒堂の才を惜しむ―

『連句年鑑』平二四年度版（日本連句協会） 平二四・九

三省堂 平二三
角川書店 平三〇・七

マックス 平一八
小学館 平二〇・五
少年写真新聞社 平二八・五

明治書院 昭五八

芭蕉の〈軽み〉という志向

『さくら草連句会』八号（さくら草連句会）平二五・三

*のちに『連句協会会報』一九五号（日本連句協会）平二五・一二二、俳誌『む』第四五号（海程仙台支部、平二六・

一）に転載

蕪村の嗜好―宰鳥から宰鳥へ― *《特集》蕪村生誕300年

『文学』一七卷二号（岩波書店）平二八・三

求道の終着地―長明・兼好から芭蕉へ―

『文学論藻』九三号（東洋大学）平三一・二

